

令和6年度海外福岡県人会と連携した 国際人財育成事業報告書

令和6年9月1日（日）～9月8日（日）5泊8日



公益財団法人福岡県国際交流センター

目 次

・ 概要	1
・ 参加者名簿	2
・ 事前研修スケジュール	3
・ 現地研修スケジュール	4
・ 成果報告会・県庁表敬スケジュール	5
・ フォローアップスケジュール	6
・ 参加者レポート	7～24
・ プログラムの様子（写真）	25～33

概 要

1 目的

グローバル化の進展に伴い、国際的な広い視野を持った若い世代の育成が必要とされている。このため、福岡県内の大学生等を海外において様々なビジネス分野で活躍する県人が集う海外福岡県人会に派遣し、県人会の協力を得て海外ビジネス体験の機会を創出する。このことによって、海外でも主体的に考え、行動できる国際人財を育成する。

2 主催

公益財団法人福岡県国際交流センター
(福岡県からの委託により、(公財)福岡県国際交流センターが実施)

3 派遣先

オーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州シドニー市(シドニー福岡県人会)

4 派遣期間

2024年9月1日(日)～9月8日(日)

5 プログラム内容

- (1) 事前研修 2024年8月8日(木)、8月23日(金)
- (2) 海外研修 2024年9月1日(日)～9月8日(日)
 - ・シドニー福岡県人会会員関係企業等での研修(事業説明及び職場体験)
 - ・シドニー福岡県人会との交流会
 - ・在シドニー日本政府関係機関等訪問
 - ・シドニー市内大学生との交流
- (3) 県庁表敬・成果報告会 2024年10月30日(水)
- (4) フォローアップ1回目 2024年11月13日(水)、11月21日(木)
フォローアップ2回目 2025年2月18日(火)～2月21日(金)

参加者名簿 (50音順)

No.	大学名	学部 学科	学年	氏名	研修グループ
1	福岡大学	人文学部 英語学科	2	小柳 諒馬	観光
2	西南学院大学	外国語学部 外国語学科	1	田仲 正明	観光
3	九州工業大学	情報工学部 知能情報工学科	3	牧野 百花	観光
4	福岡大学	人文学部 英語学科	2	井上 毘捺乃	不動産
5	九州大学	文学部 人文学科	2	亀井 倫奈	不動産
6	九州工業大学	情報工学部 知能情報工学科	2	福岡 拓也	不動産

海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業（シドニー） 事前研修スケジュール

日程	時間	内容
第1回 8月8日 (木)	9:30-10:10	参加者自己紹介 海外福岡県人会概要・今後の予定説明 プログラム説明
	10:10-10:40	豪州の基礎情報・シドニー大学 WASABI について〔オンライン〕 (講師：クレアシドニー事務所 國崎 麗子 氏)
	10:50-12:00	観光・不動産業界についてのレクチャー (講師：シドニー福岡県人会 大庭 正之 氏)
	12:00-13:00	昼食
	13:00-14:00	全日本空輸株式会社シドニー支店とのウェブミーティング〔観光グループ〕
	14:10-15:10	GIM キャピタルプロフェッショナル株式会社とのウェブミーティング〔不動産グループ〕
	15:20-16:00	グループワーク①〔シドニー大学学生との意見交換会に向けた準備〕
	16:10-16:10	事務連絡
第2回 8月23日 (金)	9:30-9:35	事務連絡
	9:35-10:45	パーソナルヒストリーについてのレクチャー (講師：シドニー福岡県人会 大庭 正之 氏)
	10:50-12:30	個人目標発表、講師からのアドバイス・総評 (講師：シドニー福岡県人会 大庭 正之 氏)
	12:30-13:30	昼食
	13:30-14:30	グループワーク②〔シドニー大学学生との意見交換会に向けた準備〕
	14:40-15:40	グループワーク③〔現地での行動計画作成〕
	15:40-16:10	事務連絡

海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業（シドニー）

海外研修スケジュール

2024年9月1日（日）～9月8日（日） 5泊8日

日程		内容
9/1 (日)	15:00 17:35-19:25 22:45	福岡空港（国内線）集合 福岡発－羽田着 羽田発（機内泊）
9/2 (月)	09:25 10:00 12:00-13:00 13:30-14:30 15:00-16:30 18:00-20:00	シドニー着 空港発 昼食 (一財)自治体国際化協会(クレア)シドニー事務所訪問 東京海上日動火災保険株式会社訪問 シドニー福岡県人会との夕食会
9/3 (火)	終日	グループ別研修 【観光グループ】 全日本空輸株式会社シドニー支店 【不動産グループ】 GIM キャピタルプロフェッショナル株式会社
9/4 (水)	終日	グループ別研修 【観光グループ】 全日本空輸株式会社シドニー空港 【不動産グループ】 GIM キャピタルプロフェッショナル株式会社
9/5 (木)	10:00-11:00 11:30-13:00 13:30-14:30 16:00-17:00 18:00-20:00	株式会社国際協力銀行 シドニー駐在員事務所訪問 昼食 在シドニー日本国総領事館訪問 日立オーストラリア General Manager of Reserch and Development Centre 訪問 シドニー福岡県人会との交流会
9/6 (金)	終日	シドニー大学 WASABI 学生との意見交換 シドニー大学 WASABI 学生との昼食・市内視察
9/7 (土)	9:30-17:30 18:00 20:55	シドニー市内視察 シドニー空港着 シドニー発（機内泊）
9/8 (日)	05:45 07:35-09:25	羽田着 羽田発－福岡着

海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業（シドニー） 成果報告会・県庁表敬スケジュール

日時	内容
成果報告会 10月30日(水) 10:00-11:00	開会挨拶（(公財)福岡県国際交流センター専務理事 武濤 研二郎） シドニー福岡県人会会長挨拶（八尋 俊朗 氏） 参加者紹介 参加学生による成果発表 アドバイザーによる総評（シドニー福岡県人会 大庭 正之 氏） 研修先企業の方々によるコメント 閉会挨拶（福岡県企画・地域振興部国際局国際局長 渡辺 文）
県庁表敬 10月30日(水) 11:30-12:00	訪問者代表挨拶（(公財)福岡県国際交流センター専務理事 武濤 研二郎） 副知事挨拶（福岡県副知事 生嶋 亮介） 派遣者自己紹介 歓談 記念撮影

海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業（シドニー） フォローアップスケジュール

日時	内容
フォローアップ① 11月13日（水） 16:30-17:30	メンター：大庭 正之 氏 対 象：男子学生（3名） 形 式：対面・座談会形式 場 所：福岡県国際交流センター3階会議室 内 容：海外で働くメリット・デメリット、海外大学/大学院進学、留学/ワーホリ、海外で活躍するために必要な要素について
フォローアップ② 11月21日（木） 13:30-14:15	メンター：國崎 麗子 氏 対 象：女子学生（1名） 形 式：オンライン・1対1形式 場 所：ZOOM 内 容：就職活動における自分の魅せ方やエントリーシートについてのアドバイス等
フォローアップ③ 2月18日（火） 19:30-20:30	メンター：國崎 麗子 氏 対 象：女子学生（1名） 形 式：オンライン・1対1形式 場 所：ZOOM 内 容：前年度参加者による体験談やキャリア形成、就職活動における戦略のアドバイス等
フォローアップ④ 2月19日（水） 9:30-10:30	メンター：大庭 正之 氏 対 象：男子学生（3名） 形 式：オンライン・1対1形式 場 所：ZOOM 内 容：語学留学、海外インターン、学生時代に取り組むべきこと、留学後のキャリア形成等、各学生の現況に沿ったアドバイス
フォローアップ⑤ 2月20日（木） 10:00-11:00	
フォローアップ⑥ 2月21日（金） 9:30-10:30	

※フォローアップについては、希望学生に対して実施。

令和6年度海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業 報告書
「海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業（シドニー派遣）を通して得られたこと」

福岡大学
人文学部・英語学科 2年
小柳諒馬

1. はじめに

私は、「海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業」に参加し、令和6年9月1日から9月8日の1週間に渡って、オーストラリアのシドニーでの海外研修に参加した。本研修における参加者は福岡県内の大学生であり、不動産と観光グループに分かれての研修であったが、私は地方創生による教育格差の是正に興味があったので、より良いまちづくりの観点から観光グループに参加した。本研修を経て得た学びや気づきについて本報告書に記録していく。

2. 本プログラムに参加するに当たっての目標

私が本プログラムに参加するに当たって設定した目標は大きく分けて3つある。1つ目に観光業のインターンを通して、どのようにして街の魅力を伝えているのかを学ぶことである。地方創生による教育格差の是正を目標としている自分にとって、ANAがどのようにして旅行エージェントに日本の航空券を売り込んでいるのかを知ることには重点をおいた。持っている魅力を如何にして人々に伝えるか、その方法を学ぶことがまちの魅力を伝えるヒントとなり、地方創生の鍵となると考えたからである。2つ目に、実際に海外、特にオーストラリアでキャリア形成している日本人の経験から2カ国間の働き方の違いを知りオーストラリアの良い点は取り込み、普段は気づくことはできない日本の良い点は再評価することだ。日本に生まれ育った我々は自らの働き方に関する常識を疑うことはないもので、一度違う文化に触れることで客観視することが可能であると考えたからである。3つ目に、オーストラリアの市場に対し、日本企業がどのような形で進出しているのかを知る事である。世界各国で得意とする産業が違ったり、気候や人口により提供するサービスが異なったりしている中で、オーストラリアの市場がどのようなもので、日本企業がそれらの需要に対しどのようにアプローチしているのかを知ることによって求められていることに対する対応力を培うことができると考えたからである。

3. ANA シドニー支店での2日間の研修を経て

本プログラムのメインの活動としてANA全日本空輸シドニー支店での2日間の研修に参加した。1日目は、ANAの航空券を扱う旅行代理店への営業業務、2日目は飛行機が空港に着いてから再度出発するまでの時間の業務について学んだ。1日目の営業業務に際して、オーストラリア人に日本の航空会社を使ってもらえるようにするための工夫が多く見られた。具体的な例として、国内線の無償化である。ANAがオーストラリア発のお客様向けに、シドニー-羽田間の往復をご利用いただくと、日本国内で2区間までのフライトを無償化するというものだった。オーストラリアでは日本の数日の休暇の間に行く旅行とは異なり1ヶ月以上の休暇を取り旅行に行くことが多くある。長い滞在期間で一か所にとどまることなく各地の観光名所に気軽に足を運んでもらうことが可能となる。これらは日本との文化的違いを十分に反映して考えられた戦略であった。また海外では日本と比べ知名度の低いANAという航空会社を多くの人に知ってもらう策として、異なる業界の他社とのコラボレーションが挙げられる。相互に宣

令和6年度海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業 報告書

「海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業（シドニー派遣）を通して得られたこと」

伝し合うことでお互いの顧客に認知してもらうことが可能な上に、業界が違うため競争する必要がなく双方がメリットのみを享受することが可能である。これらの取り組みを通して、マーケティングの4P（Product, Price, Promotion, Place）が徹底されていると感じた。それらに加えて、人間関係がドライといわれているオーストラリアの社会において、人同士のつながりがとても大切であると身を持って感じた。ANA シドニー支店の営業担当の K さんは、訪問した旅行会社のすべての人に人気があり、扉を開けて旅行会社の営業所に入るなり、スタッフの皆さんが自分の仕事を中断してまで話しかけてくるほどであった。日本のように立場や権限の上に成り立つ人間関係ではなく、信頼関係の上に成り立つもので、営業で自社商品売り込む前にまずはクライアントとの信頼関係を気付けなければ何も始まらないのだと感じた。

2 日目に関しては、飛行機が到着してから再度出発するまでの空港スタッフの業務の流れを学んだ。空港内の業務に関して最も印象的だったのは、スタッフ同士のチームワークである。円滑に仕事を進めるためのコミュニケーション、情報共有が徹底されていると感じた。特に飛行機が到着してからの機内の掃除、機内食の入れ替え、空輸品や預け荷物の積み込みの連携が印象に残っている。飛行機が到着してから再度出発するまでの2・3 時間の間ですべての業務を終わらせる必要があるので効率的な作業が求められる。また早さだけではなく、ブランケットの向きなどの会社独自のこだわりについては、随時指摘していくことによって日本の航空会社の品質を落とさずに維持できていると感じた。また業務を終えた後に、ANA スタッフの皆さんとディスカッションを行った。主に、若い世代に効果的な宣伝を作るにはどうしたら良いかと、福岡により多くのオーストラリアからの観光客を呼び込むにはどうしたら良いかということテーマに話し合った。1 つ目のテーマについて、若い世代に効果的な宣伝という点で私たちは、ショート動画による広告の作成を提案した。Z 世代と言われる我々の世代は、長い動画よりも1 分以内で見ることのできるショート動画を見る傾向にあるためそのような提案を行った。実際に顧客の立場にいる我々視点の意見を聞き取り入れる、そういった取り組みが時代と共に変化し続ける秘訣であると感じた。また2 つ目のテーマについては、解決策としてすでに日本に訪れたことがある人をターゲットに集客するという案が挙がった。日本に初めて訪れるオーストラリア人のほとんどは、スキーのできるリゾート地か、東京、大阪、京都といった都市圏に訪れることがほとんどである。初めての人の人にとって九州まで訪れるという選択肢がないのだ。そこで考えたのがターゲットを変えてしまうということだ。一度日本に訪れたことのある人々なら次に訪れる際には東京、大阪、京都以外の場所に滞在するだろう。その際に食文化や歴史、自然をアピールすることでよりセカンドビジターが福岡を訪れる理由になるのではないかと考えた。このように目標達成のために、ターゲットそのものを見直してみることで型から外れて物事がうまく進んでいくこともあるのだと確認できた。

4. オーストラリアの日系企業を訪問して

ANA の他に私たちは、自治体国際化協会シドニー事務所、東京海上日動火災保険株式会社、株式会社国際協力銀行シドニー駐在員事務所、在シドニー日本国領事館、日立オーストラリアを訪問した。各企業の訪問時間は短いものであったがそれぞれ業務内容が全く違うもので興味深かった。主に日本企業の社員であることから駐在員として派遣されている方が多かったが、ほとんどの人がシドニ

令和6年度海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業 報告書
「海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業（シドニー派遣）を通して得られたこと」

ーで生活に満足している様子だったのが印象的であった。多くの人がオーストラリア人の寛容さに目を向けていた。日本では他社を批判する傾向があり、批判されることで改善し、進化する。これらはより洗練された質の高いものを生み出すが、新しいアイデアが出にくい。反対にオーストラリアでは批判はせずに自ら考えさせる教育が行われるため新しい発想が出やすい。これらをメリットと捉えている企業が多いように感じた。オーストラリア人の新しい発想の上に日本人のそれらを洗練する技術が加われば大きな利益を生むと考えられている。また大学の研究レベルの高さが産業の発展に大きな影響を与えていると知った。オーストラリアの大学のほとんどが国立であり、企業と大学が共同研究することも珍しくない。優柔な若い世代と企業が力を合わせることで双方に利益をもたらすのだ。移民による若年人口の増加はこのような側面もあることがわかった。

5. 最後に

今回の研修を通して、普段自分が生きる世界と違う世界で生きる人と関わることができ、その中で多くの学びが得られた。特に歴史的、文化的背景から生じる違いというものは国内では体感し得ないものであり、大変貴重な経験となった。今回の研修を経て得た学びが今後の私の人生の道標となり、未来への大きな一歩を踏み出せたことを確信している。

最後に、本事業に関わってくださった全ての方々に心より御礼申し上げます。

令和6年度海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業 報告書
「海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業（シドニー派遣）を通して得られたこと」

西南学院大学
外国語学部・外国語学科 1年
田仲 正明

はじめに

2024年9月1日から8日までオーストラリア、シドニーで5日間の企業研修、市内視察を行った。多くを学び、これから自分が目指すキャリア像をイメージできた。個人目標を設定し、一つ一つ達成していくことでより海外で働きたいという思いが強くなる旅であった。

きっかけ

入学当初の私の大学での原動力はこれまでの人生の後悔からくるものだった。中学、高校生活は常に受動的な生活だった。特に高校時代は毎日ただタスクをこなし、「終わらせさえすればいい。」といったような怠惰な生活だった。1年間浪人しても志望校に合格できず、これまでの生活を悔いた。自分の将来の姿を惟て、大学では後悔の残らない生活を過ごそうと思った。そんな中、本研修の募集ページを見つけた。これからの大学生活に様々な選択肢を与えられる活動をしたいと思い応募した。メールが届いた時これをきっかけに自分は変わるんだと思ったのと同時に身の引き締まる思いだった。

目標

事前研修を通して以下の4つの個人目標を設定した。「1. ANAが海外の企業にどのような営業をしているのかを見る。2. 現地の方がなぜANAで働くことを選んだのかを聞く。3. 現地の学生とつながりを創る。4. より多面的な考え方ができるように、わからないことがあったら小さなことでも質問をする。」これらは応募前の自分のオーストラリアに関するリサーチと事前研修での國崎様、大庭様、前回参加した方のお話を聞いて決めたものである。

また観光収支ランキングで日豪の比較をした時にコロナ前はほぼ同位だったにもかかわらず、コロナ以降日本が大きく差をつけられてしまったデータを見て自分の目でその理由を探りたいと思った。自分の意識をこの研修で変えたいと思い、4つ目の目標を設定した。また研修中、これらの目標があったおかげでさらなる疑問や新しい目標ができた。

研修

9月2日、シドニーについてすぐにクリアシドニー事務所と東京海上日動を訪問した。クリアシドニー事務所では3人の方からそれぞれ、クリアに入るまでの人生がどのようなものだったかお話しいただいた。迷ったときにどうするかという質問に、「一人で考えるより、誰かに聞くことが大事。一度立ち止まって考えないと正しい考えができない。」という回答があった。これまで自分は相談することを恥ずかしいと思い一人で抱え込むことが多かったが、誰かに相談することで新しい視点で考えるチャンスを得られると気づいた。

東京海上日動では主に海外での事業がどんなものなのかを教えていただいた。「英語で何を話せる

令和6年度海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業 報告書

「海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業（シドニー派遣）を通して得られたこと」

か」が大事という話をお聞きして言語を学ぶだけでなく、何か専門的な知識も身につけないとグローバル市場では活躍できないと分かった。3日、4日は全日本空輸株式会社（ANA）での研修を行った。3日はシドニー支店に訪問し、現地の旅行販売店への営業に同行させていただいた。世間話から業務内容の話に自然と展開を移していく姿が印象的だった。営業のケヴィン様の人柄で培った信頼関係で商談が進んでいるのだと感じた。営業の第一線で活躍されている人の仕事を間近で見ることができとても勉強になった。移民が多いオーストラリアならではのカンガルールート（Aussie がどこかを經由して故郷に戻ること。）というものがあることを知った。現地出身の ANA の方は「自分が本当に誇りに思えるものを ANA は提供している。」と仰っていて会社と個人のベクトルが同じであることも働くうえで大切なことだと思った。4日はシドニー国際空港に行き実際に飛行機が飛ぶまでの業務を体験した。安全でお客様に満足してもらえるフライトを提供するまでに多くの過程があり、たくさんの人に支えられていた。

5日には国際協力銀行を訪問した。利益を追求するよりも、一つ一つの仕事が国のため、世界のため、社会のためになる責任感のある仕事だということがわかった。自分もこんな仕事をしたいと思った。リサーチのフリン様も「国、世界レベルで影響のある仕事だからこそ、正確で質の高い情報を届ける責任がある。」と仰られていて常に学びをやめない姿勢に感動した。在シドニー日本国総領事館では領事の関山様からお話しいただいた。領事として活躍されている方とお話しできたのは本当に嬉しかった。日本のことを誤って発信しないように、歴史に残る仕事に携わっているからこそその難しさがあると思った。領事の言葉遣い、所作、ふるまい、日本人としての品格を目の当たりにして強いあこがれを抱くようになった。自分の目指すべき社会人像はこれだと目標が定まった。最後に訪問させていただいた日立オーストラリアでは豊富な資源のあるオーストラリアでの仕事について伺った。

研修を終えて八尋会長のお宅での会食にお招きいただいた。私の普段の生活ではお会いすることもできない方々からアドバイスをいただくことができた。書家の方から頂いた「無理だという理由をさがすな」という言葉を忘れずに常に目標に向かって挑戦していきたい。

研修を終えて

今回シドニーに滞在して日本と比べてオーストラリアはメリハリがしっかりしていると感じた。ほとんどのお店が夜8時には閉まってしまふ。平日しっかり働いて、休日は一切仕事に触れずに休みを満喫する人が多いそうだ。日本の平日と休日の区別があいまいな感じとは違うと思った。コロナの時も日本の曖昧な対応とは違いオーストラリアは対応が早かったと聞いた。観光収支のランキングの差にはこのメリハリの有無がコロナ収束時期に差を生み、観光客の受け入れ再開時期に差が出たのではないかと考えた。この研修で、自分の夢を叶えるためには何をしたらいいのか、グローバルに活躍されている方々から、多くのアドバイスを頂けた。一方、これまで自分は努力してきたと思っていたが、それ以上の努力をしている人がたくさんいて自分の未熟さに気づかされた。

大学生になって約5か月でこの研修に参加できたことは自分のこれからの大学生活と将来設計にとっても大きな影響を及ぼすと思う。これから先の人生の中でこの研修を思い出すことが何度もあるだろう。この研修で出会う事ができた人との関係を大切にしたいと思っている。シドニー大学の WASABI と交流したご縁で、私の所属する大学の国際交流団体と WASABI でイベントを行うことが決まった。これ

令和6年度海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業 報告書
「海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業（シドニー派遣）を通して得られたこと」

をきっかけに私の大学とシドニー大学とのつながりを作り、より多くの人に興味を持ってもらい最終的に提携を結ぶことが目標だ。また会長宅のバーベキューパーティーで出会った、祭り屋兼書道家バスカーの富永陽仁様を招き、書道パフォーマンスと留学生向けに書道体験会を行うイベントを開催することになった。今後もこの研修での出会いを大切に様々なことにチャレンジしたい。

来年度以降この研修への参加を迷う人がいたらぜひ応募してほしいと思う。ほかのインターンや留学とは違うこの研修でしか体験できないことがたくさんあるからだ。勇気を出し1歩踏み出すことができれば、行く前より何倍も成長することができる体験が待っている。それだけこの研修に参加することは意味のあることだと思う。

この研修に携わっていただいたすべての方に心より感謝申し上げます。

参加させていただき本当にありがとうございました。

令和6年度海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業 報告書
「海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業（シドニー派遣）を通して得られたこと」

九州工業大学
情報工学部知能情報工学科 3年
牧野 百花

1. はじめに

この度、令和6年度海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業に参加し、オーストラリアのシドニーで5泊8日の研修を受けた。以下に本研修を通して得られた知見や感じたことについて報告する。

2. 個人目標

私は本研修に参加するにあたって大きく二つの目標を立てた。一つ目は英語力の向上であり、二つ目は自分のキャリアに対する考えを深めることである。私は今まで大学生活や日常生活の中で英語を話す機会が少なく、自分の英語力に自信がなかった。そこで1週間という短い期間ではあるが、積極的に話して英語でのコミュニケーションに自信を持ちたいと考えた。また、大学3年生になりこれからの将来について具体的に考えていかなければならないタイミングで、シドニーで働く方々のキャリアに関するお話を聞き、視野を広げることで自分の進路について改めて考える機会にしたいと考えた。

3. シドニーでの学び

私は観光グループとして全日本空輸株式会社（以下 ANA）のシドニー支店で2日間研修に参加した。まず、1日目には営業やマーケティングに関するセミナーを受けたり旅行代理店への営業回りに同行させていただいたり、数ある航空会社の中で「どうやって ANA を選んでもらうか」という部分について学んだ。最近人気になっている格安航空会社など、様々な価格・サービスの航空会社があるなかで ANA ならではの魅力をいかに伝えることができるかが重要になってくる。そこで、営業回りでは旅行代理店の方々に直接プランに関する説明を行い、旅行代理店の方々から意見を聞くことでお客様の需要がどこにあるのか、改善すべき点はどこかを細かく把握していた。2日目には空港での業務の様子を実際に見学させていただいた。ここでは ANA を選んでくださったお客様に「どうやって満足してもらうか」という部分について学んだ。飛行機が到着してからその飛行機を次に使える状態にするまでの作業やチェックインカウンターでの作業などを見学し、ANA ではオーストラリアの業者に清掃や機内食の搬入、チェックイン作業などを委託しているということを知った。業務委託という形をとっているとクオリティにばらつきが出てしまうことが心配されるが、ANA では“Japan Quality”を大切にしており、委託しているどの作業においても ANA の職員が最終的なチェックを行っている。実際に、ANA の方が座席の枕の向きまでチェックを行っていたのを見て驚いた。このような細やかな気配りにまで気づく人は少ないのかもしれないが、この小さな積み重ねが私たちの快適なフライトを支え、ANA が誇る高い品質につながっているのだと分かった。

また、この2日間でオーストラリアの観光業界に関して様々なことを学ぶことができた。まずは、オーストラリアの人々にとって日本は人気の旅行先であることだ。円安の影響も大きいですが、特に日本でスキーをすることが非常に人気であり、ANA ではこの状況を受けてスキーをしに行くオーストラリア人に向けたプ

令和6年度海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業 報告書

「海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業（シドニー派遣）を通して得られたこと」

ランを準備している。また、今後の課題として、現在はスキーができる冬に人気が集中しているため、季節間の売り上げの差をなくすことや、東京や大阪・京都だけでなく、九州などの地方への旅行客を増やすことが挙げられていた。さらに、ANA は日本を代表する航空会社であり、日本では知らない人はいないほどであるが、オーストラリアにおいてはカンタス航空などと比べると知名度が低く、日本の会社としての認識が薄いため、もっと宣伝をしていかなければならないというお話も聞いた。このように、自分が今まで知らなかったお話を沢山聞くことができ、とても楽しい研修だった。

そして、この2日間で観光業界だけでなく、他の場面にも共通する学びが多くあった。一つはオーストラリアでは“Connection”（人とのつながり）が大切だということだ。企業訪問や県人会の方との交流の際にもこのことをお話される方が多かったが、特にこのことを肌で実感したのが ANA の K さんの営業回りに同行した時であった。K さんが代理店に立ち寄るとすぐに全員が笑顔になり、歓迎していた様子がとても印象的で今でもその光景は忘れられない。ただの仕事仲間というよりも友達のような雰囲気、この信頼関係が航空会社と旅行会社の連携を強固なものにしているのだろうと感じた。また、この関係性があるのは K さんの高いコミュニケーション能力があつてこそだと思った。人との距離感や話し方など、これから自分が社会人として生きていく上で真似していきたい部分が多くあり、大変勉強になった。また、自分の英語力のなさを痛感したのもこの日であった。営業回りからセミナーまでこの日は一貫して英語のみを使用して行われたのだが、K さんの言っていることが断片的にしか分からず、特に営業先の方とお話している内容はその話自体が分からないこともあった。特に自分の中で悔しかったのは自分の考えを上手く伝えられなかったことだ。ANA の方々は自分達の意見を聞く機会を多く設けてくださったのだが、自分の考えを瞬時に英語に変換することができず、思うように表現できなかった。この経験から、まずはボキャブラリーを増やすことがこれからの課題だと感じた。とても悔しい経験であったが、私の拙い英語を一生懸命理解しようとしてくださった ANA の方々には本当に感謝しており、この経験が日本に戻ってからの英語の勉強の大きなモチベーションになっている。

グループ別研修だけでなく企業訪問においても貴重なお話をたくさん聞かせていただいた。その中でも株式会社国際協力銀行シドニー駐在員事務所での「自分の可能性を閉じずに志をもって全力で取り組むことが大切だ」というお話が最も印象に残っている。日本人は自分を過小評価する傾向にあることが多いが、「自分なんて」という考えでは自分の可能性の幅を狭めてしまう。オーストラリアでは日本人に対する期待や信頼が大きいとおっしゃっていた。確かにこの研修で出会った方々は皆さん、自分の仕事に誇りを持ち、そして自分自身に自信をもって働いていた。私はこのお話を聞いて、謙虚であることと自信がないことは違うのだということを学んだ。自分が今まで取り組んできたことに誇りを持つことで新たなことに挑戦する勇気にもつながり、世界が広がるのだ。また、自信を持つためには全力で努力することが必要であると感じた。私はこれから「自信を持ちながらも謙虚な姿勢」をモットーに様々なことに積極的に挑戦していきたいと思った。

4. おわりに

本研修を通して、この報告書に書ききれないほど多くの学びがあった。また、人々との交流を通して本当に多様な生き方・価値観があることを学び、それぞれの考えを自由に共有できることの素晴らしさ、

令和6年度海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業 報告書
「海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業（シドニー派遣）を通して得られたこと」

楽しさを感じた。私はこの1週間が人生の中で最も視野を広げてくれた期間であったと確信している。この経験をここで終わりにするのではなく、今後の人生においても活かしていきたいと思った。この研修を終えてさらに海外への興味が増し、もっと色々な国に行ってみたいと思ったので、まずは英語の勉強に力を入れていきたい。シドニーで出会った方々のように、自分の人生を楽しみながらグローバルに活躍する人材になるため、日々努力していく所存である。

この研修でとても貴重な経験をさせていただきました。最後にこの研修に関わってくださった全ての方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

令和6年度海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業 報告書
「海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業（シドニー派遣）を通して得られたこと」

福岡大学
人文学部・英語学科 2年
井上 毘捺乃

1. 初めに

私は今回、2024年度のシドニーインターンシップに参加し、この研修で、不動産グループとして個別に訪問したGIMを含め、6つの企業様の方々とお話しする機会をいただき、この経験をレポートで述べる。

2. クレア・シドニー事務所

まず初めに訪問させていただいたのは、クリア・シドニー事務所である。ここでは、多くの日本人が働いており、シドニーでの引率も務めてくださった、國崎さんもここで働かれていた。最初に三名の方のそれぞれ15分間の、プレゼンテーションを聞いた。内容としては、シドニーで働くことになった経緯や、どのような道を歩んできたかなど、英語学科に通い海外で働くことに憧れをもっている私にとって、とても有意義な時間だった。山西さんは、オーストラリアの大学に進学し、後悔はないと仰った。だが、海外だから楽そうに見えて、かなり日本よりも厳しい部分を教えてくださった。それは、まず授業時間は一コマ3時間で、かなりハードであったことや、アルバイトは日本のように、サイトで簡単に探せるわけではなく、自身の履歴書を配り歩く必要があったのだ。私はこれを聞き、海外渡航で夢だけをもって軽い気持ちで行ってはいけなと感じた。もちろんどこかで分かっていたものではあるが、実際に話を聞くと現実を知ることができた。そして、お三方の私たちへのアドバイスは、「その時のベストを尽くすこと、コネクションを大切にすること、もっと経験を増やすこと」であった。また、私においては語学力が大切であると伝えてくださった。意識を変えて、英語学科として本気で取り組む必要があると、感じた。

3. 東京海上日動火災保険会社

次に、私たちは東京海上日動火災保険会社に訪問させていただいた。ここでは、より詳しい会社についての説明などを伺った。東京海上日動火災保険は、保険会社であり、リスク分散のために、グローバル化に力を入れている。日本で大きな災害があった際に、倒産することを防ぐために、災害が少ない国に進出する。そうすることで、海外の会社にあるお金で、日本のピンチを救うことができるそう。そのため、今現在会社の利益は、日本が48パーセント、国外は52パーセントにも及ぶ。海外に進出するにおいて大切なのは、国の背景をよく知り、状況によって変えることができる視点を持つことであるそう。私は、柔軟な視点をもっているので、海外に行けるだろうとは思っていたが、国の背景を知ろうとはしていなかった。盲点であったので、かなりよい知識をいただいた。

4. Global International Management, GIM

次の訪問した会社は、私、不動産グループがインターンシップに参加させていただいた、GIM不動産会社である。ここでは、物件に関する実践的資料を作成したり、実際に物件を回り、オーストラリアの

令和6年度海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業 報告書

「海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業（シドニー派遣）を通して得られたこと」

人々がどのような家に住んでいるか、など旅行では絶対に知ることができないものを知ることができた。私は、小さいころから0からものを作る独創的な活動が好きだったが、今回はテンプレートに沿ったお仕事が多く、型に合わせて作成したが、どの独創的なお仕事でもこのような事務的なお仕事はある、と学べた。GIM社は信念を強く持っており、全てにこだわってお客様に合った物件を提供している。やはり、日本でも成功している会社は、一つのことを徹底して守っていて、理念がしっかりしている会社が、大企業に多く見られ存続している。やりたいことが決まっていて、後は会社を選ぶ状態の私には、会社を決めることにおいて、かなり重要な視点を学ぶことができた。そして、初めてインターンシップに参加し、学んだことは、「働くこと」は責任が少なからずかかり、また一緒に働く仲間の存在がかなり大切だということだ。そのため、今後は学校で出される課題を丁寧に取り組み、仲間とのつながりを大切にしていき、会社で働く練習の場として、大学に熱心に通おうと、決めた。

5. 株式会社国際協力銀行シドニー駐在員事務所

次に、株式会社国際協力銀行シドニー駐在員事務所に訪問した。年間2兆円ほどの融資を通して企業をサポートしており、半数以上を中小企業に融資しており、未来への投資も欠かさない企業である。私はこの会社の説明を聞いているとき、とても心が躍った。GIM社是一对一の関係でお客様に対応する業種であったが、ここは会社対会社という、大規模なものになる。ここで初めて私は何かを提供・売ってお仕事がいいと思っていたが、その中での大規模なものの方が自身の好奇心、達成感が満たされることに気づいた。また、プリンさんのお話を聞き、自分に合う場所は日本のほかにもあり、時間をかけても見つけた方がいいと学んだ。大学卒業まであと三年しかない焦っていた私に、より明確になったやりたいことと、寛容な知見をここでいただいた。

6. 日立オーストラリア

次に、企業としては最後の日立オーストラリアに訪問した。私は文系で英語学科を専攻しているものとして、無縁であった研究・開発部門でのお話であった。だが、研究・開発部門はかなり独創的でお話を聞いていても、過去の研究などは「その視点があったか！」と驚かされた。私自身、クリエイティブな発想で今まで様々なことに取り組み、解決してきたが、それを本業とする方々のお話はかなり刺激的で、一緒にお仕事してみたいと感じた。もちろん学んでいる学問的には触れもできない業種ではあるが、そのように自身の想像力を発揮できるところに就職したいなと、夢が広がった。

7. 在シドニー日本国総領事館

最後に、在シドニー日本国総領事館に訪問した。ここでは、外務省が何をしているかなどの説明を受けた。また、領事官とお話するという、頑張っても得られない経験をさせていただいた。幅広い分野で行われる情報収集など、映画でしか想像ができないお話や、ザンビアの方々の優しすぎるお話がかなりおもしろかった。私は、公務員には興味がなかったが、今回聞いた話やこの研修で、興味あるもの、ないものの白黒がはっきりついてとても良い経験になったと確信している。

令和6年度海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業 報告書
「海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業（シドニー派遣）を通して得られたこと」

8. 最後に

この研修を通して、やはりものを売る仕事はワクワクして、今までは製品を売る会社しか知らなかったが、保険会社のように安心を売るお仕事も視野に入り、迷う選択肢が増えた。迷えるということは贅沢だ、と以前母に言われていたので、私はもっと贅沢ものになれたと思う。また、ものを売る対象は海外の方であれば誰でもいいと思っていたが、GIM社を経験して一対一ではなく、国際協力銀行のお話を聞いて、会社対会社などの大規模なものが良いと直感した。どちらも素晴らしい業種ではあるが、私にとって達成感が大きいと感じやすいのは後者だとはっきりした。また、公務員のような違う業種も視野に入れなければ、狭すぎると感じていたが、やはり自身が興味がないものを模索するよりも、興味あるものの中をもっと探したりすることが、キャリアにおいて、もっとも重要であるとわかった。

この研修で、あり・なしがはっきりし、とても一週間とは思えない量の学びがあった。普通のインターンシップに参加する際にどこに行こうかと、ずっと悩んでいたが、今回のこのプログラムで多くのことに白黒がつき、目標や今すべきことを絞ることができた。

このプロジェクトを支えてくださった方、本当に感謝いたします。この経験を腐らせることがないよう、これからの大学生活を精進してまいります。

本当にありがとうございました。

令和6年度海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業 報告書
「海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業（シドニー派遣）を通して得られたこと」

九州大学
文学部人文学科 2年
亀井倫奈

1. はじめに

この度、私は令和6年9月1日～9月8日の期間に海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業に参加した。同じ福岡県に在住する5人の仲間とともにオーストラリアのシドニーに派遣され、多くの日本企業に訪問したり、観光グループと不動産グループに分かれて実務を体験したりした。本レポートでは、今回の研修で得られた新しい考えと学んだこと、そして自身の変化を中心に述べる。

2. 自身の目標

私は第2回の事前研修において、2つの個人目標を立てた。1つ目は「自分の将来に生かせることやそれに対する考え方を見つける」ということで、2つ目は「現地の人と交流する中で、1秒も無駄にしない」ということであった。私は、自分の将来の職業を決められていないことと、英語力不足、海外での経験不足を自身の課題だと考えている。だから、今回はその課題に対しての目標を立てた。私は、オーストラリアのビジネスや、オーストラリアで働く人のキャリアを知ることによって新しいキャリアの在り方を学ぶことができると考えた。さらに現地の人と積極的に交流することで貴重な体験ができたり、自分の英語力を向上させられたりするのではないかと考えたのである。以下本文では、目標に対する成果も含めながら学んだことを述べていく。

3. 不動産会社 GIM での研修を通して

今回私は不動産グループに所属していた。GIM キャピタル・プロフェッショナル株式会社で2日間のインターンシップを行わせていただいた。1日目の午前中は、鶴社長がご自身のキャリアとオーストラリア不動産について話してくださった。オーストラリアの不動産は日本とは全く異なっていた。去年は1週間で77ドル家賃が跳ね上がったこともあるそうだ。半年で家の相場も変わり、目まぐるしい変化の中に不動産はあるのでその変化に置いて行かれないように情報をキャッチしていくことが大切だと鶴社長はおっしゃった。私は、そこで自分の情報収集が足りていなかったと感じた。自分の職業に対する情報を十分に集められていなかったと反省したのだ。夢が決まらないと言って待っているだけでなく自分から行動することが重要であると改めて学んだ。

1日目の午後は、物件の概要や問取り図をまとめた実践資料を作った。これは情報を間違えないということが1番重要だった。自分が入れた情報が間違っていないかを何度も確認したり、資料を作る速さを意識したりして作業に取り組んだ。この作業では、仕事を任される嬉しさと楽しさ、そして責任感を学んだ。「任せてもらった仕事は絶対に完璧に仕上げよう。」と思って資料作りに取り組み、その成果を認められるととても嬉しかった。これが私にとって仕事のモチベーションの一つになる気がした。

2日目の午前中は、物件視察に行った。オーストラリアの家の内装はまた日本と違って面白かった。私が受けた印象としては、オーストラリアの物件のほうが日本の物件より、シンプルでスマートだということ

令和6年度海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業 報告書

「海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業（シドニー派遣）を通して得られたこと」

だ。色も白と黒に統一されている部屋が多かったり、エアコンやオープン、トイレタンクが内蔵されていてとても広く感じた。2.4億円の家からの景色はとても壮大で、感激だった。人生においてとても貴重な経験ができたと思う。

そして午後は、プロジェクトシートを作成した。プロジェクトシートとは物件の概要をよりお客様に分かりやすく伝えるパンフレットのようなものだ。メンバーの一人とペアを組んで作った。友人が得意なパワーポイントとレイアウトを担当し、私が文章を担当した。得意分野で役割分担することで、作業効率が良く、完成度高いものが時間内に出来上がったので良かった。この作業を通して役割分担の効率の良さを感じたし、進み具合を報告することの大切さと時間内に仕事を終わらせることの重要性を実感した。この2日間のインターンシップを通して、海外で働くというのを少し実感できた気がする。また、一つ一つの作業にこだわることで高い完成度の資料ができると思ったし、何よりも仕事はお金のつながりではなく、人と人とのつながりが大切だと感じた。さらに鶴社長は文系学部の大学院を2つ卒業されていることが印象に残った。私は大学院に進学するかどうかとても迷っている。そんな時に「大学院に進学してよかった。」という鶴社長の言葉は、私の背中を押してくれた気がする。もう一度自分の進路を考え直したい。

4. 多くの日本企業に訪問して

今回の事業では、シドニー駐在の多くの日本企業に訪問した。本レポートでは、特に私の考えに影響を与えてくれた2つの機関について述べる。

1つ目は、株式会社国際協力銀行シドニー駐在員事務所である。ここでは、高橋さんとプリンさんのお話を聞かせていただいた。国際協力銀行が今何をしているのか、日豪関係がどう盛り上がっているのかを学ぶことができた。その中でも特に心に残ったのは、「海外にバックグラウンドがなくても日本で学んできたことを生かせば何でもできる！」という言葉である。私は今まで、海外で働くことに正直自信がなかったし不安だった。でもその言葉を聞いて、少し勇気が湧いた気がする。また、プリンさんは仕事には縁と運も必要だとおっしゃっていた。この研修全体を通してもそうであるが、皆さん人との縁を大切に成功されているなと感じた。人とのいい関係を築くために日々情報を集めて、話題作りはしておこうと思った。そして、もう一つ気になったことがある。それは、高橋さんがおっしゃっていた「日本のメディアはネガティブである」という言葉である。私は、出版社に興味があって、雑誌の編集などの仕事についても考えている。メディアに関する分野に興味がある身として、日本のメディアをもっとポジティブにしたいなと純粋に思った。その方法は、まだ明確に考えていないが、私の言葉を多くの人の心に届けたいという想いはある。これは私の将来の職業について新しい考えをもたらしてくれたと思う。

そして2つ目は、在シドニー日本国総領事館である。ここでは関山領事に直接お話を聞くことができた。普段は入館することができない総領事館の内部に通してもらい、とても貴重な体験ができたと思う。そして関山領事のお話は改めて背筋が伸びるようなお話だった。まず、今まで全く知らなかった領事官と外交官の仕事について知ることができた。絶えず変化する世界情勢を把握しなけばならない大変な仕事なのに、「今この瞬間に夢中」と楽しそうに話される姿が印象的だった。私もそのような仕事を見つけないかと心から思った。また、今すべきこととして日本のことを学んでおかなければいけないことにとっても納得した。海外と関わるということにおいて、つい海外のことばかりに目を向けてしまいがちだが、

令和6年度海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業 報告書
「海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業（シドニー派遣）を通して得られたこと」

やはりまずは日本のことからだと痛感した。私はまだ日本についての知識も英語力も足りないので、人に会うことを楽しみながら情報収集をして勉強していこうと思った。

企業訪問では、様々な職種の人たちの様々なキャリアの話を知ることができて本当に勉強になったし、前向きな気持ちになった。

5. シドニー大学の学生と交流して

9月6日にはシドニー大学の日本文化サークル WASABI の学生と交流した。英語で日本とオーストラリアのキャリアについてプレゼンして意見交換ができた。英語で話すということにとっても緊張していたが、シドニー大学の大学生が理解しようとしてくれたのでこちらもリラックスして話すことができた。コミュニケーションは話そうとする姿勢と聞こうとする姿勢が大切だと心から学んだ。また、自分の英語力不足も痛感した。自分の伝えたいことをうまく伝えられずにもどかしい思いを何度もしてしまい、相手に申し訳なく思ったので、改めて英語を勉強しようと思った。英語力向上というより、英語力不足を実感し、改めて気合を入れなおす機会になったので良かった。

6. さいごに

この海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業を通して私は大きく成長できたと感じている。最初に立てた個人目標も達成できたと私は思う。この研修で学んだことを無駄にせず、人と人との関わりを大切にしながら今後の学生生活を送ってきたい。

最後になりましたが、私たちに貴重な研修をさせていただいた元永局長、松本さんをはじめとする福岡県国際センターの方々、國崎さんやシドニー福岡県人会の方々に心から感謝したい。またここで出会った5人の仲間にも感謝したい。似た目標、志を持つ仲間たちと出会えて本当に良かった。この感謝の言葉とともに、報告書を締める。

令和6年度海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業 報告書
「海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業（シドニー派遣）を通して得られたこと」

九州工業大学
情報工学部知能情報工学科 2年
福岡 拓也

1. はじめに

今回、「令和6年度海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業」への参加を通して得られた学びを報告する。

2. 志望動機

私が本事業に応募した理由は、企業での職場体験を通して自分が今学んでいる情報工学をどのような形で実社会に生かすことができるかを考える貴重な手がかりを見つけるためである。今年から新紙幣の顔となる渋沢栄一の「論語と算盤」という本を最近読んだ。そこで、今自分が勉強しているプログラミングなどの技術は、いわゆる「算盤」の方であり、これらの技術を学ぶことで世の中をどう変えていくか、という「論語」にあたる目的意識が自分には欠けていることに気づいた。そんな中、本事業を知り、大学で情報工学を学んでいるだけではなかなか触れる機会のないサービス業や金融業などの企業を訪問し、現地の方のお話を聞くことで、今自分が学んでいる技術が実際にビジネスで活用されている様子や、今企業が必要としているものを知ることができ、将来目指すべき方向性を見つけられるのではないかと考えた。また、今年の春に初めての海外渡航としてマレーシアに短期留学したことで、それまで海外にあまり関心がなかった自分の中で、将来は日本に限らず世界で活躍できるグローバルな人材になりたいという意識が芽生え、海外の企業を訪問できる絶好の機会を手にしたと思い応募した。

3. 事前研修

シドニーでの研修をより良いものとするために、二度の事前研修が行われた。第1回事前研修ではメンターの大庭様から、豪州の基本情報について学んだ。その話の中で、日本と豪州の経済面での比較を通して、経済的な違いは文化的な違いの根拠として説明できることを知った（消費性向と社会保障制度の関係など）。これを踏まえ、第2回事前研修で設定することとなる個人目標の一つに、「現地生活の中で様々な文化の違いを発見する」ことを定めた。また、大庭様の話で印象に残った言葉がある。それは、「2、30年後の社会や経済を想像しなさい」という言葉である。そのためには、日頃から多方面にアンテナを張り、情報を集めることが大切だと思った。そしてそれが将来の選択肢を増やすことにも繋がると思う。

4. シドニーでの研修

シドニーでは毎日が学びの連続だった。私の人生で最も濃い1週間だったと思う。

初日はクリアシドニー事務所と東京海上日動火災保険株式会社を訪問した後に、YAYOIにてこれからお世話になるシドニー福岡県人会と現地企業の皆様との食事会に参加した。クリアシドニー

令和6年度海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業 報告書

「海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業（シドニー派遣）を通して得られたこと」

事務所では3名の職員の方からご自身がこれまで歩んできたキャリアについてお話を伺った。その中で印象深かった話がある。“self-esteem（自尊心）”という言葉は、日本ではあまり良いイメージがないが、海外では、「困難に直面したときでも、自分を大事にする心を持つことで立ち向かう事ができる」と捉えられているという。日本人が大切にしている謙虚さが、海外では弱気と取られることがあるため、自尊心を持つことも大切だというお話だった。私自身普段から周りに気を遣いすぎて遠慮がちな部分があるため、もっと自己主張して良いのだと背中を押してもらえた気がした。東京海上日動では2年前までミャンマーで勤めていた方のお話を聞くことができた。クーデターが起きた2021年に日本企業はミャンマーでどう立ち振る舞ったのか、日本から現地を見た意見と現地での意見の相違について聞き、置かれている状況によって善悪は変わるという臨場感のあるお話を聞いた。夕方の食事会では、シドニー福岡県人会の八尋会長とお話することができた。八尋会長は次の時代を作っていくのは若者であるというお考えを強くお持ちで、それは今回の研修全体を通して感じたことである。自分たちが時代を作るのだという自覚を持って、大学生の間はたくさんのお話を吸収する期間に充てようと思った。

2日目と3日目は不動産会社のGIMキャピタル・プロフェッショナル株式会社で2日間インターンとして実務体験をさせていただいた。実際に物件を内覧し、物件の情報をまとめたプロジェクトシートを作成した。代表の鶴社長と以前よりインターンとして働いている二名の日本人の学生の方から業務内容について教わった。同じ大学生の二人からはシドニーで働くまでの経緯についても聞くことができ、自分の中で選択肢が広がった。鶴社長からは不動産会社に限らず、どの会社でも通じるような、ビジネスパーソンが大切にしていることを多く学ばせてもらった。タスクを何時までに終わらせられるのかきちんと明言することや、物件内覧の際、移動に時間をかけないよう素早く行動することなど、こうした一つ一つの行動が社会人として信頼を得るために必要なことであることを学べたのはとても大きい。

4日目は国際協力銀行シドニー駐在員事務所、在シドニー日本国総領事館、日立オーストラリアを訪問した。国際協力銀行では2名の職員の方から会社の概要について教わった。リサーチャーのフリン様からはご自身のキャリアも交えてのお話を聞いた。私の将来のビジョンを広げてくれたのがフリンさんの「自分の専門分野×面白いと思った分野の掛け合わせが大切である」という言葉だ。私の専門である情報工学は様々な分野との掛け合わせが可能であるため、どの分野と掛け合わせると面白いかを残りの大学生活で見極めたいと思った。日本国総領事館では関山領事から外交官の仕事についてお話を聞いた。海外で生活する際に気をつけていることは何かという質問に対して、「誰かと会うときは、相手にとって自分が初めての日本人かも知れないという意識を持って接している」という言葉が印象深かった。国を背負う仕事の責任感を肌で感じた。日立オーストラリアではアイデアの出し方のお話が印象に残っている。ニュースで常に情報収集、展示会に参加する、人脈を作る、の三点が大切であるという。これまでお話を伺った方々も皆同じ事を話していたので、海外でキャリアを積まれた方々が意識していることを明確に理解した。

5日目と最終日はシドニー大学の学生と時間を過ごした。日本のキャリアについての意見交換をしたり、互いの趣味などについて話した。海外の人と日本のポップカルチャーの話題で盛り上がり、日本文化の凄さを感じた。同時に自分の英語力不足を痛感し、課題も浮き彫りになった。意見交換などの比

令和6年度海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業 報告書
「海外福岡県人会と連携した国際人財育成事業（シドニー派遣）を通して得られたこと」

較的フォーマルな場では自分の意見を伝えられたのに対し、カジュアルな会話になるとついて行けなくなることが多々あった。反射神経を鍛えるために、英会話の場数を踏むことが今後の学習計画である。

5. まとめ

4日目の夜に八尋会長宅でシドニー福岡県人会の皆様との交流会があった。そこでお話した方々全員が私には輝いて見えた。その理由はおそらく、皆さん自分の人生を楽しんでいるからだと思う自分の仕事について皆さんとても楽しそうに話されていたのが印象に残っている。私ももっと自分の人生を楽しむ方法を模索したいと思った。今回の研修を通して漠然と思い描いた人生プランは、一つの場所に留まらず、旅をするように様々な場所で仕事をしたいということである。私は幼い頃から日本の歴史が好きで、本を読んだりして勉強していた。そして、日本には魅力的な場所がたくさんあることを知り、社会人になってから何十年も同じ土地に住むのはもったいない、いろいろなところに住んで、その土地の歴史や文化に触れたい、という幼い頃抱いていた思いを今改めて思い出した。そして今回オーストラリアという魅力的な場所に出会い、一度しかない人生を日本だけで終えるのはもったいないと思った。様々な国で様々なバックグラウンドを持つ人々と一緒に仕事をして、価値観を広げることが人生を豊かにするのだということを今回多くの方から教わった。そして自分の専門分野に近いエンジニアという職業が働く場所を選ばない職業であることに改めて可能性を感じている。グローバルに活躍する将来を見据えて日々の勉強に励みたい。

6. おわりに

シドニー派遣前からずっと私たちをサポートして下さった引率者の皆様、現地で貴重な学びの機会を下さった多くの企業の皆様、県人会の皆様、そして、本事業を通して出会い、ともに高め合った仲間をはじめ、本事業に関わって下さった全ての方に感謝申し上げます。

ありがとうございました。

事前説明会・事前研修の様子(2024.6.1、8.8、8.23)

○事前説明会〔6月1日(土)〕



○第1回事前研修〔8月8日(木)〕



○第2回事前研修〔8月23日(金)〕



現地研修の様子(2024.9.1~9.8)

○9月1日(日)

- ・出発式(福岡空港)



○9月2日(月)

- ・IPPUDO 訪問



- ・一般財団法人自治体国際化協会シドニー事務所訪問



- ・東京海上日動火災保険株式会社訪問



現地研修の様子(2024.9.1~9.8)

・シドニー福岡県人会との夕食会



○9月3日(火)～9月4日(水)

・観光グループ(全日本空輸株式会社シドニー支店)



現地研修の様子(2024.9.1~9.8)

- ・不動産グループ (GIM グローバルキャピタルプロフェッショナル株式会社)



○ 9月5日 (木)

- ・株式会社国際協力銀行シドニー駐在員事務所訪問



- ・在シドニー日本国総領事館訪問



現地研修の様子(2024.9.1~9.8)

・日立オーストラリア訪問



・シドニー福岡県人会の皆様との交流会



○9月6日(金)

・シドニー大学 WASABI 学生との意見交換会



現地研修の様子(2024.9.1~9.8)



○9月7日(土)

・市内視察



・帰国



現地研修の様子(2024.9.1~9.8)

○9月8日(日)

・解散式(福岡空港)



成果報告会・県庁表敬の様子(2024.10.30)

○10月30日(水)

・成果報告会



・生嶋副知事表敬訪問



フォローアップの様子(2024.11~2025.2)

○11月13日(水)

・対面座談会フォローアップ



○11月21日(木)

・1対1 オンラインフォローアップ



※本人は音声により参加

○2月18日(火)~2月21日(金)

・オンラインフォローアップ

